

PALTEK

(証券コード:7587)

2015年12月期 決算説明会

2016.2.10 (水)

FY2015 Results Reporting

© 2016 PALTEK Corporation. All rights reserved.

アジェンダ

- ① 2015年12月期 業績結果**
- ② 2016年12月期 業績予想**
- ③ 今後に向けた取り組み**

1

2015年12月期 業績結果

連結業績結果

(百万円)	2014年		2015年		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	23,155	100.0%	28,841	100.0%	5,686	24.6%
売上総利益	3,713	16.0%	4,261	14.8%	548	14.8%
販管費	2,704	11.7%	2,900	10.1%	195	7.2%
営業利益	1,008	4.4%	1,361	4.7%	352	35.0%
経常利益	1,052	4.5%	1,144	4.0%	92	8.8%
当期純利益	563	2.4%	674	2.3%	111	19.9%
1株当たり当期純利益	49.31円	—	61.16円	—	11.85円	24.0%

主な増減要因

- 売上高は、半導体事業が大幅に増加
- 営業利益は、売上高が増加したこと、円安進行により仕入値引ドル建債権の評価額が増加したこと等により増加

(百万円)	2014年		2015年		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
半 導 体	21,898	94.6%	27,255	94.5%	5,355	24.5%
デ ザ イ ン サ ー ビ ス	1,118	4.8%	1,354	4.7%	238	21.3%
そ の 他	139	0.6%	231	0.8%	92	66.6%
売 上 高 合 計	23,155	100.0%	28,841	100.0%	5,686	24.6%

主な増減要因

- 半導体事業は、主に産業機器向けを中心に新たに取引を開始したお客様の売上高が増加。その他、医療機器、ファクトリーオートメーション、ブロードバンド向け通信機器向け等も増加

■ 売上総利益率の低下は、以下の2つが要因

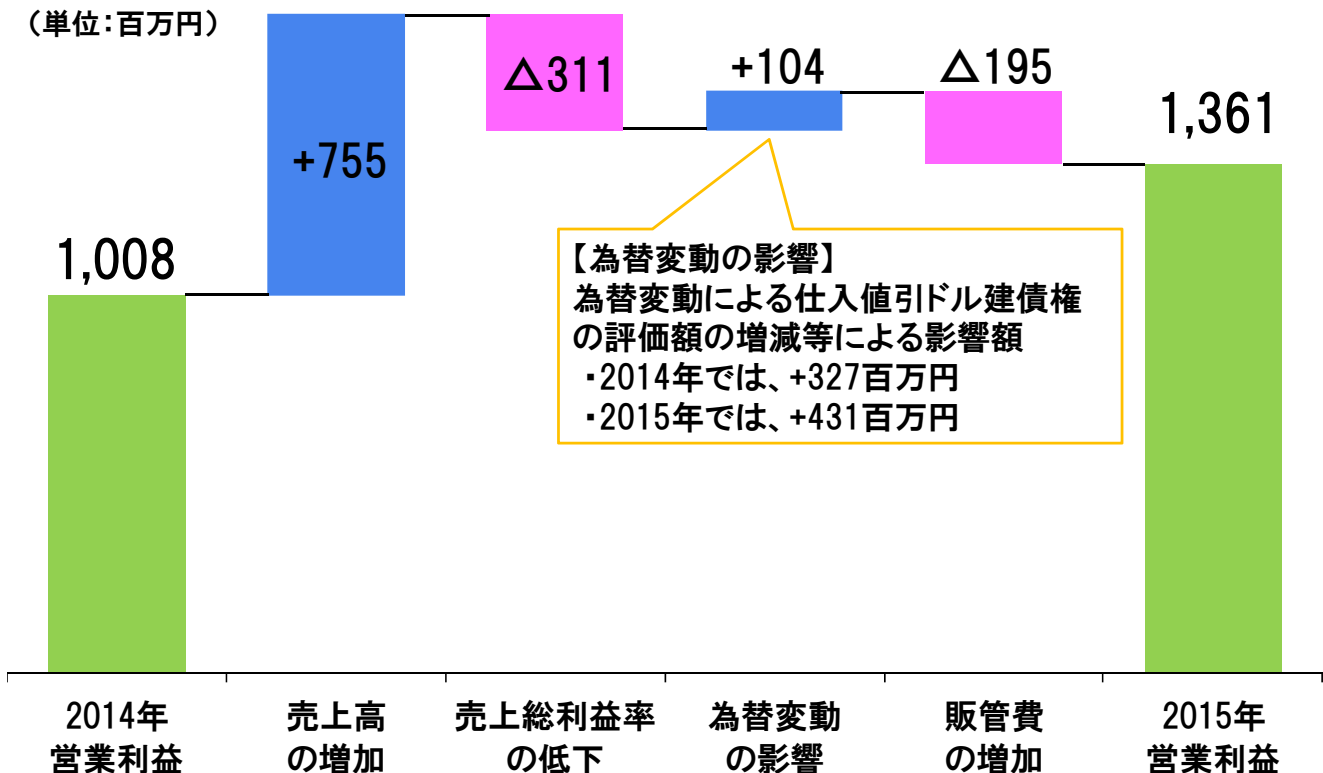
- ・ 半導体事業において、売上総利益率の低い案件の売上高が増加
- ・ ドル円相場により変動する仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額の増減等による売上原価押し下げの影響で売上総利益が、2014年では+327百万円(1.4%分)
2015年では+431百万円(1.5%分)の影響があったこと
(※仕入値引ドル建債権の説明は、本資料の参考資料に記載)

(百万円)	2014年		2015年	
	金額	対売上比率	金額	対売上比率
売 上 総 利 益	3,713	16.0%	4,261	14.8%
(うち為替の影響額)	327	1.4%	431	1.5%
売 上 総 利 益 (為替の影響を排除)	3,386	14.6%	3,830	13.3%

- ドル円相場により変動する仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額の増減等による売上原価押し下げの影響を排除した場合の、連結業績の推移は以下のとおり

(百万円)	2013年		2014年		2015年	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上高	17,611	100.0%	23,155	100.0%	28,841	100.0%
売上総利益	2,851	16.2%	3,386	14.6%	3,830	13.3%
販管費	2,415	13.7%	2,704	11.7%	2,900	10.1%
営業利益	436	2.5%	681	2.9%	929	3.2%

(単位:百万円)

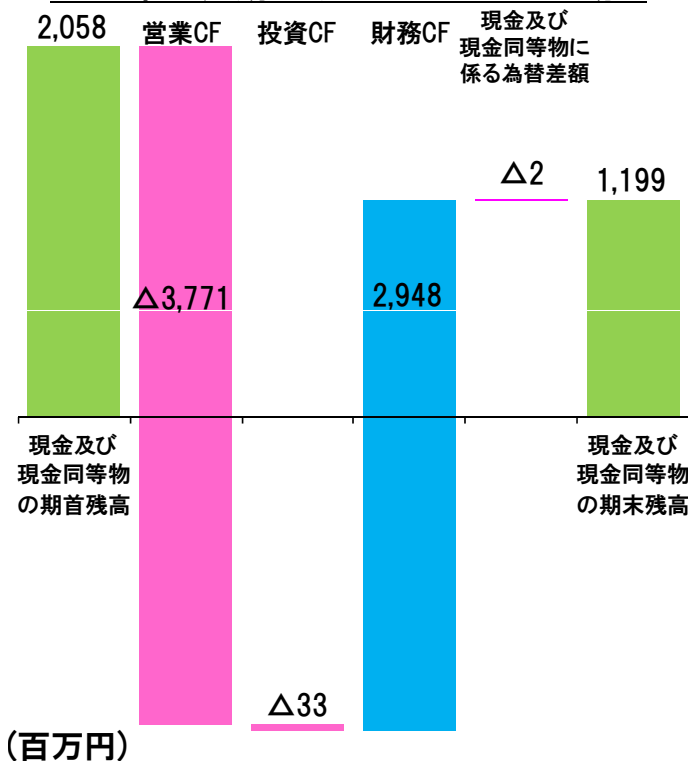


連結貸借対照表の状況

	(百万円)	2014.12末	2015.12末	増減額	主な増減理由
資産内訳	現金及び預金	2,058	1,199	△859	仕入債務支払いのため減少
	売上債権	4,496	7,367	2,870	売上高の拡大のため増加
	商品	3,139	3,918	779	今後の売上高の拡大に向け増加
	その他流動資産	1,765	2,988	1,222	未収入金が増加
	固定資産	577	504	△73	
資産合計		12,037	15,977	3,940	
負債純資産内訳	仕入債務	784	1,047	262	
	短期借入金	780	4,130	3,350	仕入債務支払いのため増加
	その他流動負債	1,398	1,468	69	
	固定負債	325	283	△41	
	純資産	8,748	9,048	299	
負債・純資産合計		12,037	15,977	3,940	

連結キャッシュ・フローの状況

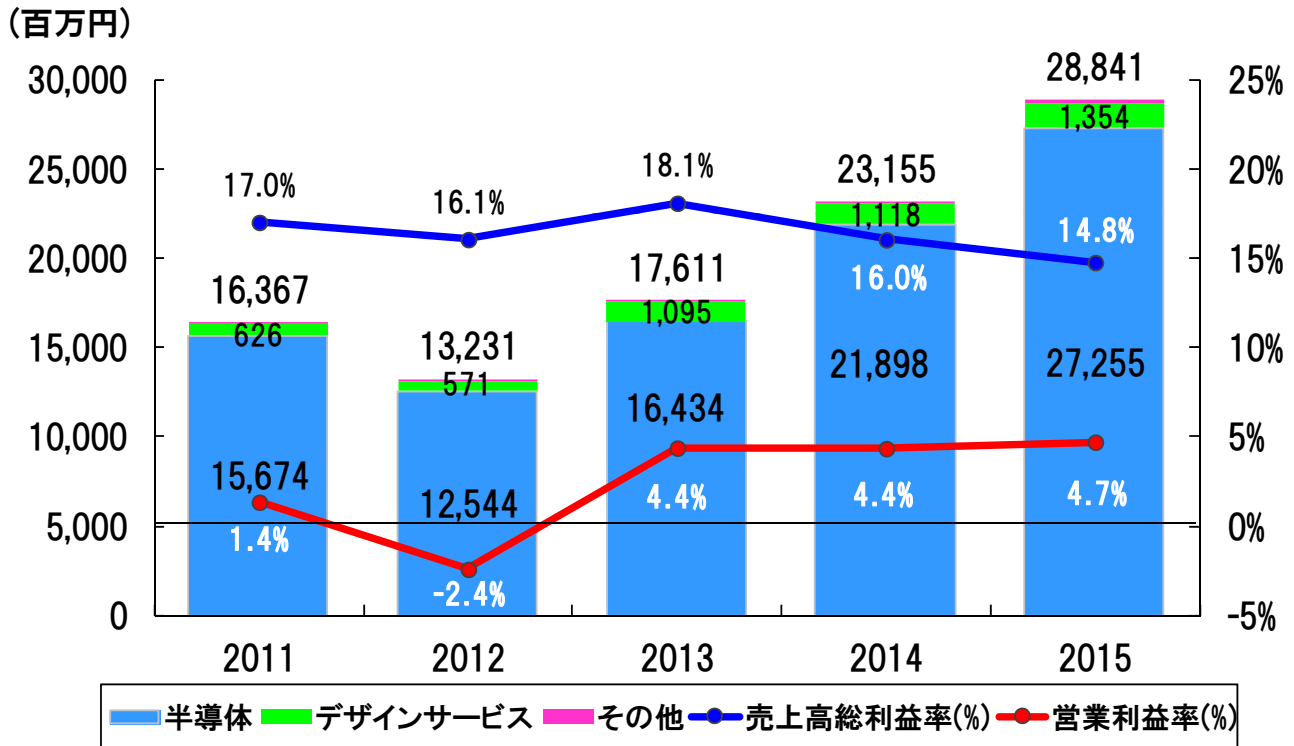
2015年12月期のキャッシュフローの動き



(百万円)	2014年 12月期	2015年 12月期
現金及び現金同等物の期首残高	1,198	2,058
営業CF	1,150	△3,771
投資CF	△74	△33
財務CF	△219	2,948
現金及び現金同等物の期末残高	2,058	1,199

2015年12月期のキャッシュフローの動き

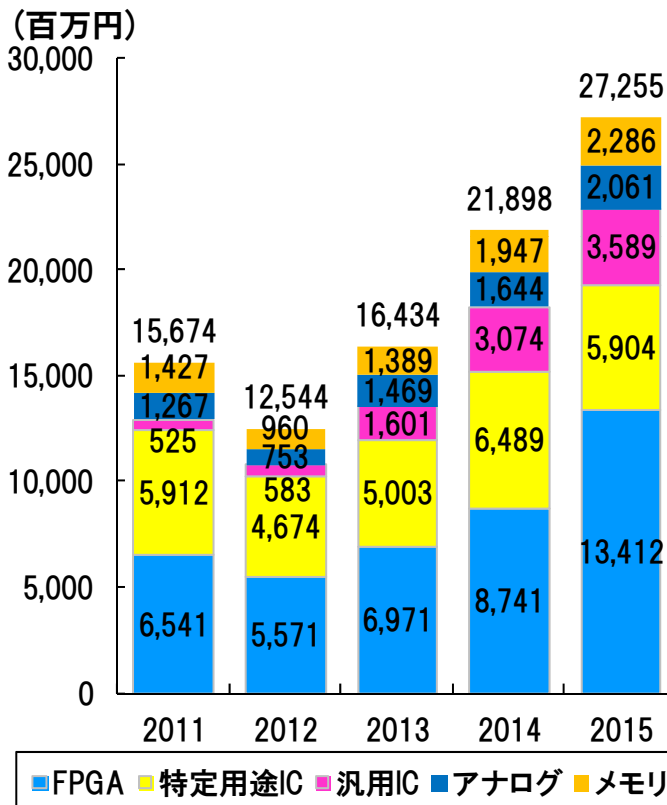
- 【営業CF】税金等調整前当期純利益を計上したものの、売上債権、たな卸資産、未収入金が増加したこと等により支出
- 【投資CF】有形固定資産を取得したこと等により支出
- 【財務CF】自己株式の取得等、配当金の支払を行ったものの、借入れの実施等により収入



事業別の実績



半導体事業の状況（製品別）



FY2015 Results Reporting

13

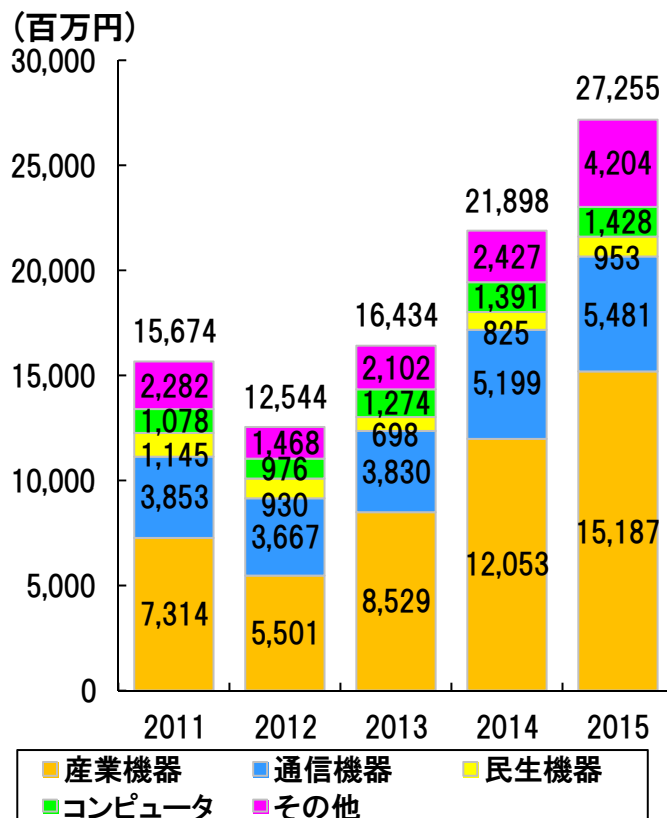
業績の推移

- FPGA**
新たに取引を開始したお客様の売上が増加(ファクトリーオートメーション、医療機器、車載機器など)
その他、医療機器、ファクトリーオートメーション向けが増加
- 特定用途IC**
PC向けタッチパッド、サーバー向けインタフェース製品等が減少
- 汎用IC**
オフィス機器向け等が堅調
- アナログ**
医療機器、ファクトリーオートメーション向けが堅調
- メモリ**
医療機器向け、2次代理店向けが増加

© 2016 PALTEK Corporation. All rights reserved.



半導体事業の状況（用途別）



FY2015 Results Reporting

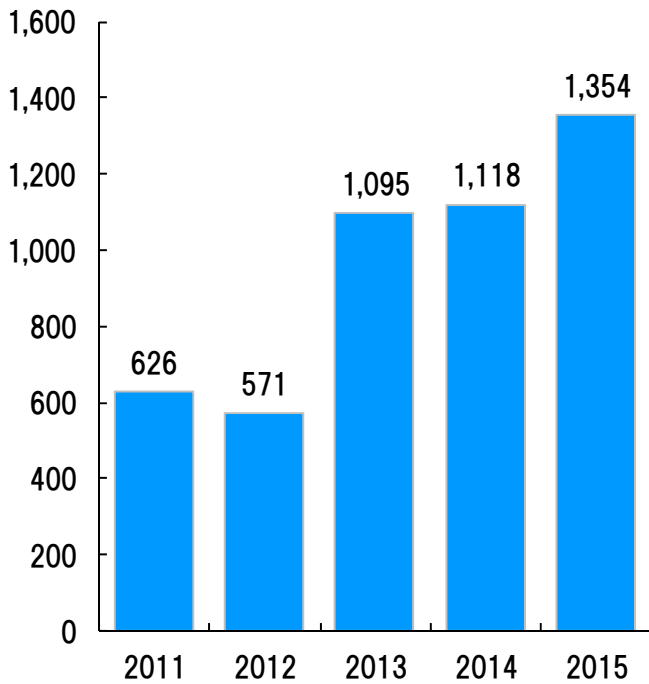
14

業績の推移

- 産業機器**
医療機器、ファクトリーオートメーション向けなどが大幅に増加
- 通信機器**
ブロードバンド通信機器向けが堅調

© 2016 PALTEK Corporation. All rights reserved.

(百万円)



業績の推移

- 無線通信機器、IoT関連機器向け設計受託が堅調に推移
- 監視カメラシステム向けの自社製品の販売が堅調に推移

2

2016年12月期 業績予想

■ 外部環境について

- 中国や新興国の景気減速懸念を受け、見通しは不透明な状況

■ 為替の影響について

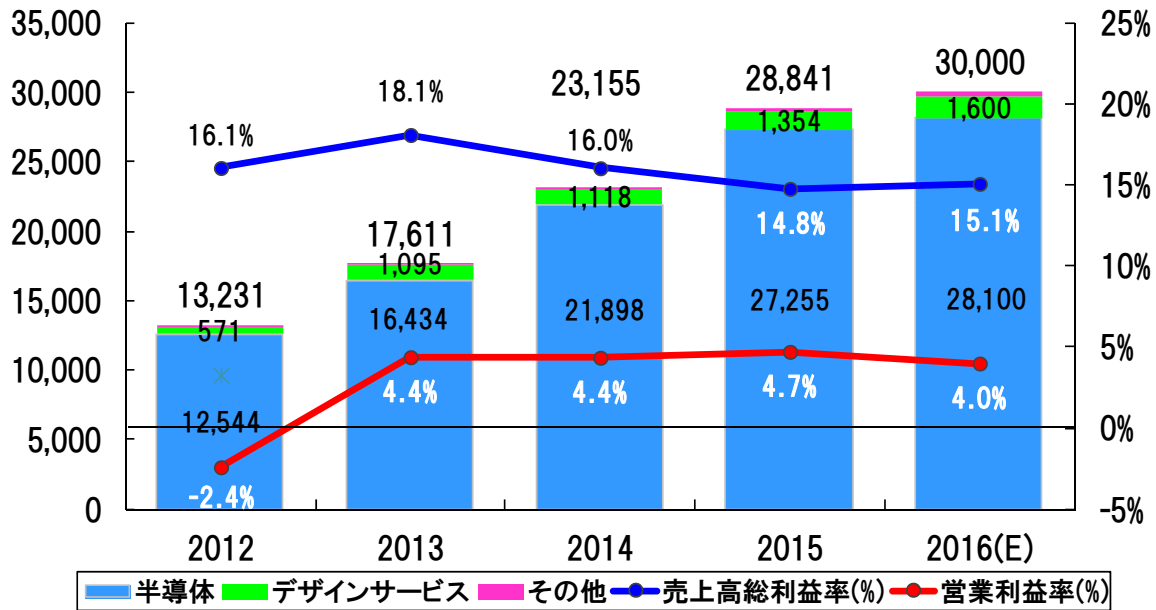
- 現時点において、ドル円相場は円高方向に進んでいるが、値動きが非常に激しく、予測することが非常に困難
- 過去3期では円安基調にあったため、仕入値引ドル建債権の評価が増加し、利益を押し上げている
- 2016年12月期の業績見通しについて、当該値引債権の評価額の増減は加味しない数字として発表

(百万円)	2015年12月期 実績			2016年12月期 予想			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	13,308	15,533	28,841	14,600	15,400	30,000	1,158	4.0%
売上総利益	2,141	2,120	4,261	2,170	2,355	4,525	263	6.2%
売上総利益率	16.1%	13.6%	14.8%	14.9%	15.3%	15.1%	0.3%	—
販管費	1,394	1,506	2,900	1,650	1,675	3,325	424	14.6%
営業利益	747	613	1,361	520	680	1,200	△161	△11.9%
営業利益率	5.6%	4.0%	4.7%	3.6%	4.4%	4.0%	△0.7%	—
経常利益	713	431	1,144	470	630	1,100	△44	△3.9%
当期純利益	454	220	674	300	400	700	25	3.7%



業績見通しの推移(連結)

(単位:百万円)



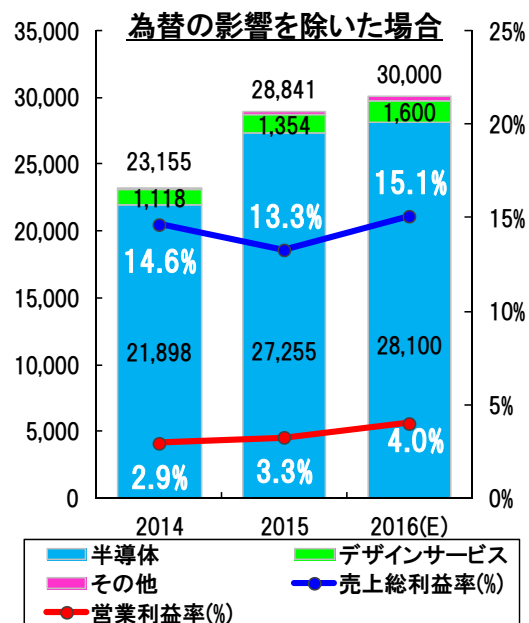
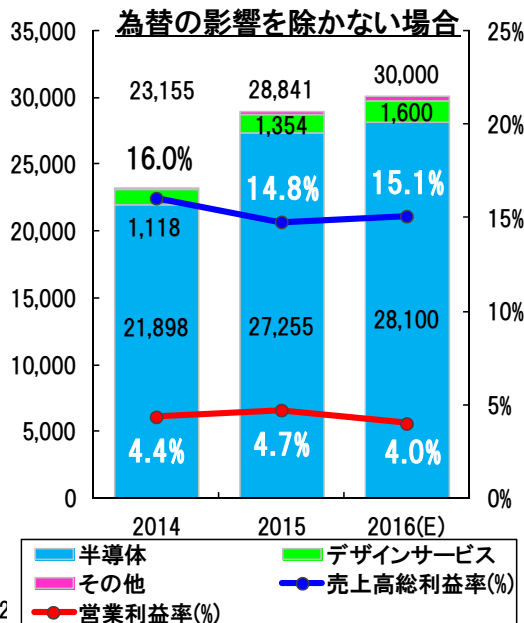
- 売上高 : 半導体事業、デザインサービス事業がともに増加
- 売上総利益率 : 半導体事業での利益率改善およびデザインサービス事業の売上比率が高まるため上昇
- 営業利益率 : 販管費の増加等により低下

FY2011



為替の影響を除いた場合の業績予想比較

- 2014年12月期、2015年12月期では、円安進行により仕入値引ドル建債権の評価額が大幅に増加。原価を押し下げる要因となった
(2014年12月期:327百万円、2015年12月期:431百万円)
- 2016年12月期はこの評価額増減は加えられていないため、実力値ベースでは増益となる



FY2

20

reserved.

配当方針

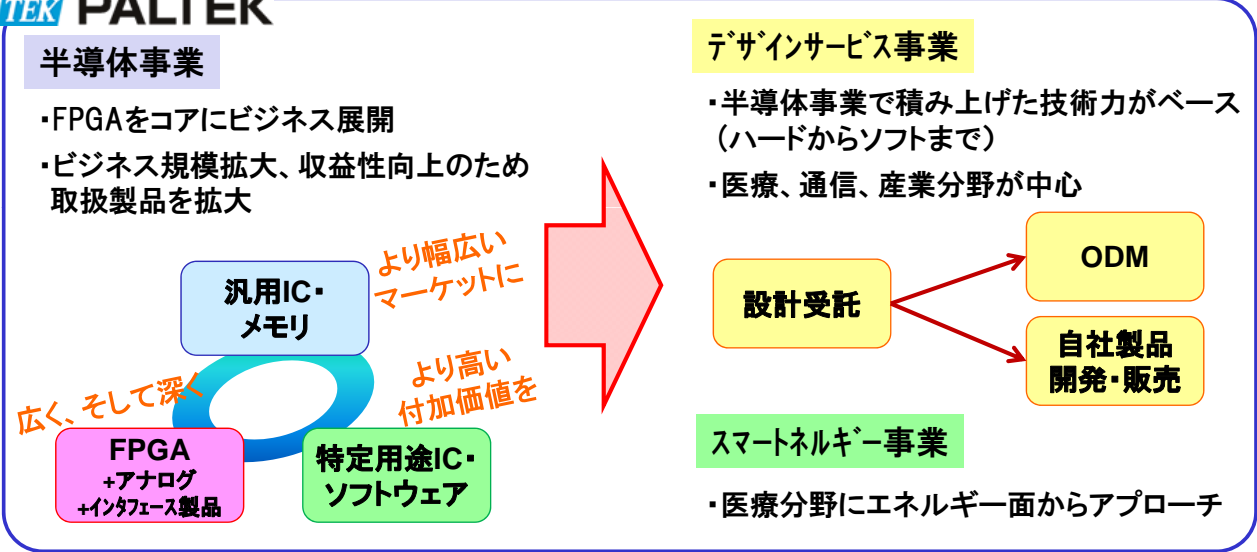
- 利益配分については、経営基盤の強化や将来の事業展開を考慮し、適正に配分
- 配当金については、安定的な配当を維持しながら、業績に対する配当性向を勘案

配当金

- 上記配当方針に基づき、期末配当金は、1株13円を予定

3

今後に向けた取り組み



- ・画像・映像・音声処理の技術が強み
- ・放送(8K/4K)、医療、セキュリティ分野を中心に、受託設計・ODM・自社製品を展開



- ・センサーとMEMSの2つの技術を持つ稀有な会社
- ・今後、MEMS技術でセンサーの小型化などを視野に展開



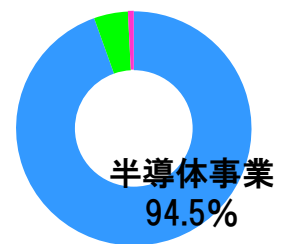
■ 事業の方向性

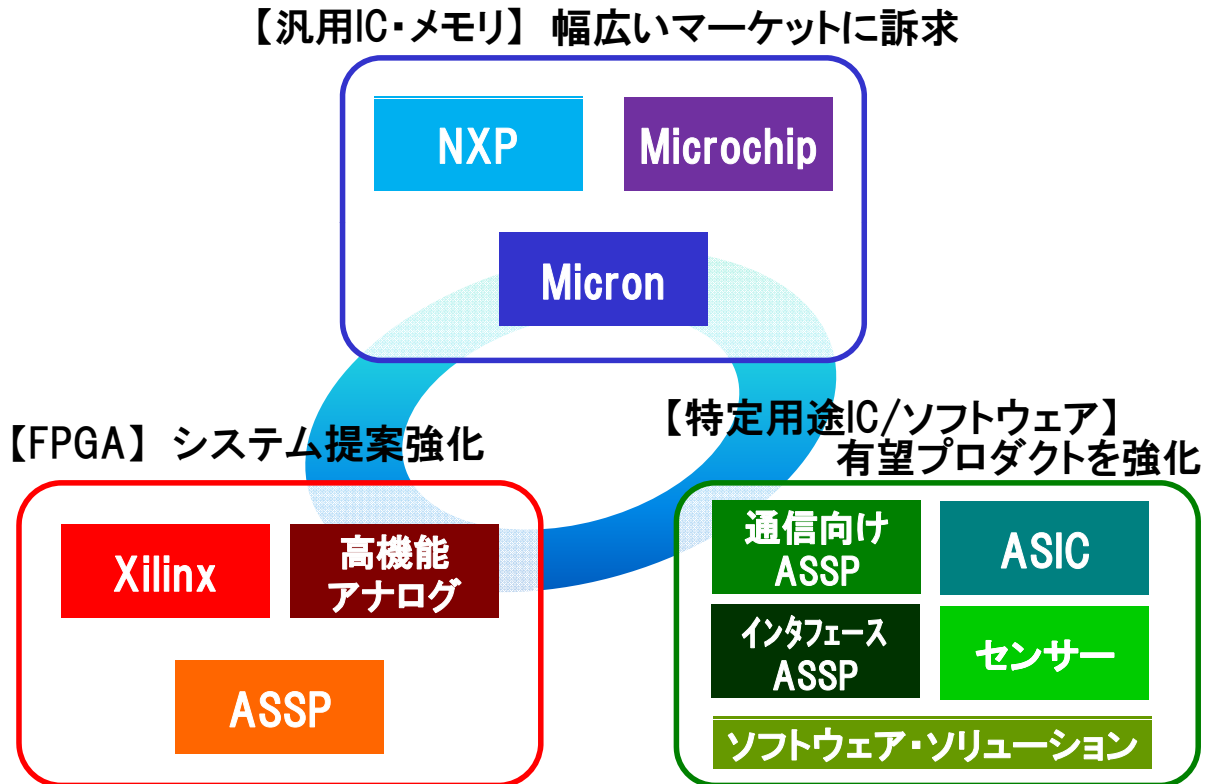
- ・ 安定的に収益を確保する事業を目指す

■ 戦略

- ・ FPGA市場の拡大
- ・ IoT市場への新たな取り組み
- ・ 成長市場への注力: 産業機器、医療機器、通信機器、放送機器、車載機器
- ・ デマンド・クリエーションの強化
- ・ 付加価値高い製品の開発と開拓

2015年12月期売上構成比





- 新規顧客でのデザイン活動の強化
- 新規中小顧客の拡大、パートナーとの連携強化
- 成長市場への注力
 - 通信機器 : 5Gワイヤレス
 - 産業機器、放送機器、医療機器、航空・宇宙
: Industrial IoT、8K/4K関連機器、次世代医療機器
 - 車載機器 : ADAS(先進運転支援システム)、カーナビ
- 付加価値提案の実施(トータルソリューション提案)
 - 新製品の提案/販売力の強化

■ 顧客拡大により売上増加

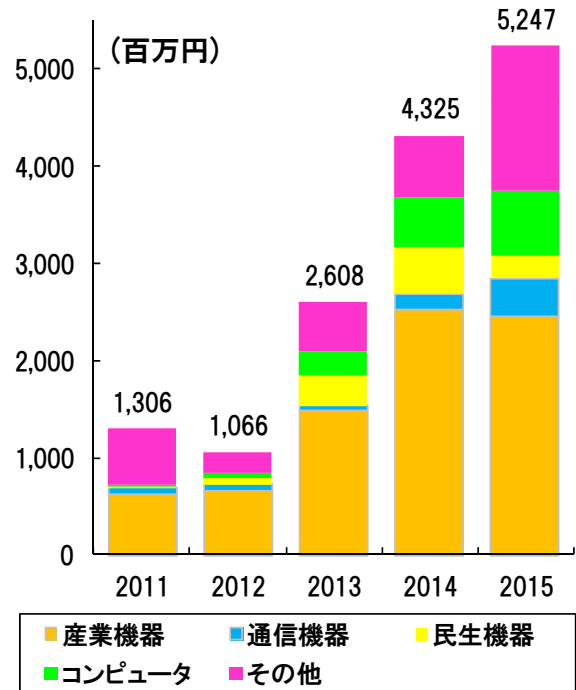
- 産業機器
- 医療機器
- 通信機器
- データセンター
- 携帯情報端末

■ システム提案力の強化

■ デザインサービス事業との連携強化



第2の柱となる4製品の売上推移



産業別
アプリ

- 医療・ヘルスケア
- 公共
- 交通・流通
- エネルギー
- 農業
- 工業

プラット
フォーム

- データ分析
- データ蓄積
- 接続管理
- セキュリティ管理
- デバイス管理
- 上位API

インターネット



ローカル
ネットワーク



端末

- 機械
- スマートメーター
- カメラ
- 医療機器
- ATM/POS
- 自販機
- ウェアラブル端末
- デジタルサイネージ
- スマートデバイス
- RFID
- スマート家電

■ 920MHz帯マルチホップ無線製品(沖電気工業)

- 電波到達性の高い920MHz帯無線を活用し、センサネットワークをフレキシブルに構築



【適用領域】

- 工場内の設備稼働・センサ監視
- インフラ設備(道路・鉄道)の監視
- 老朽化した橋・トンネル等のインフラを遠隔監視
- メガソーラーなどのパネル故障、機器故障などの監視



■ セルラーゲートウェイ(ロバステル社)



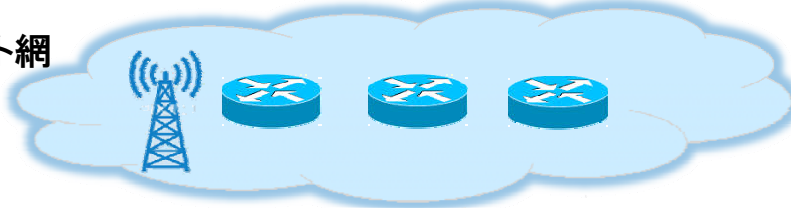
- 国内外の携帯電話キャリアの認証を多数取得しているため、国内/海外のビジネス展開をサポート可能
- ロバステル社について
 - 本社:中国 広州
 - 2010年設立
 - 従業員100名(うち研究開発50名)
 - 支店:ドイツ、オーストラリア、日本、タイ、香港



セルラールータ

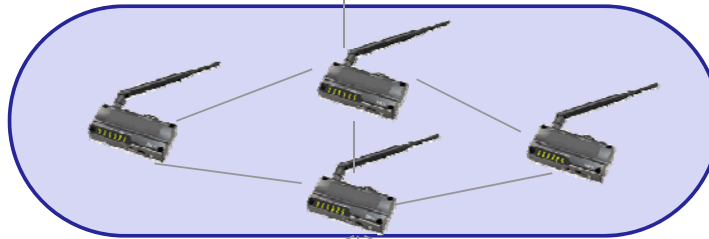


インターネット網



robustel
セルラールータ

ローカル
ネットワーク



OKI
920MHz帯
マルチホップ無線

センサー端末



IoTインフラ向けに端末からデータセンターまで製品ラインを拡充

インターネット網



クラウド コンピューティング
データセンター **XILINX**

NXP Micron

公衆ネットワーク回線
(4G,LTE)

ゲートウェイ
(ルータ)



robustel
(セルラーゲートウェイ)

ローカル・ネットワーク

RF(無線ソリューション)

OKI

センサー端末



センサ
セキュリティ
マイコン(制御)

NXP

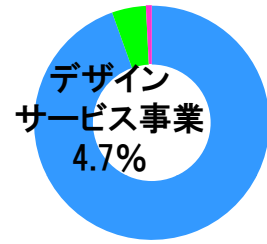
MICROCHIP

【適用領域】 社会・交通インフラ、エネルギー、医療(ヘルスケア)、産業機器 など

2015年12月期売上構成比

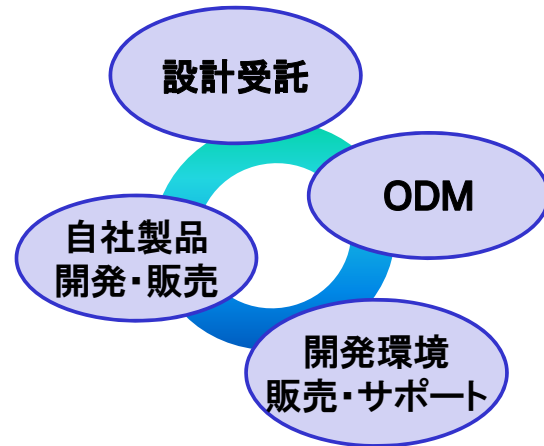
■ 事業の方向性

- 日本メーカーが得意とする医療、放送等の産業分野、通信分野の開発をサポートし、付加価値の高い製品・サービスを提供



■ 戦略

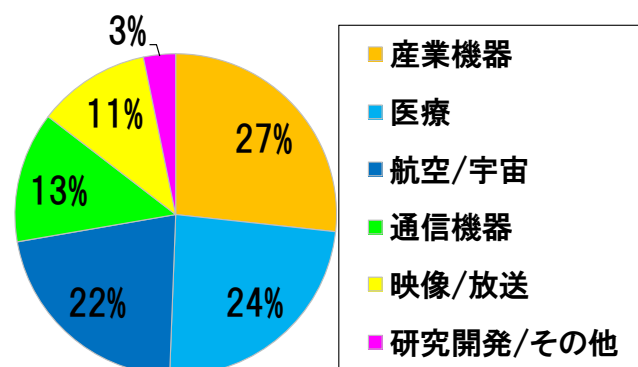
- 設計受託の強化
- ODMの更なる展開
- 自社製品開発・販売
- 開発環境販売・サポート
(ツール、評価ボードの販売等)



■ 産業機器、医療機器、航空/宇宙、映像/放送分野での設計受託・ODMが堅調

- 産業機器
 - IoT関連機器、ファクトリーオートメーションの設計受託
 - 監視カメラ向けコーデック装置の提供
- 医療
 - 次世代内視鏡の開発
 - MRI/CTスキャナ向けエンジンボードの提供
- 映像/放送
 - 8K映像合成装置の設計受託
- 通信
 - 無線通信機器の設計受託

用途別売上構成(2015年)



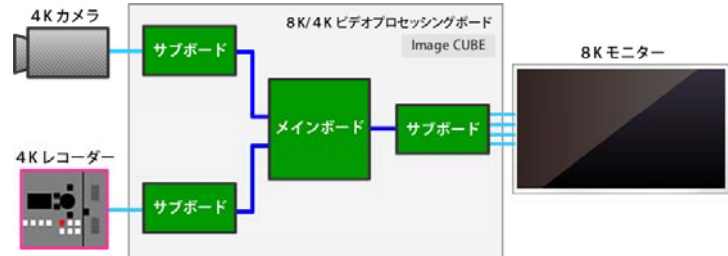
※ ODM(Original Design Manufacturing): 発注元企業のブランドで販売される製品を設計するだけでなく、製造も行うこと



【自社製品】8K/4Kビデオプロセッシングボード 「Image CUBE」を開発、販売

■ 柔軟に8K映像処理を実現するビデオプロセッシングボードを開発

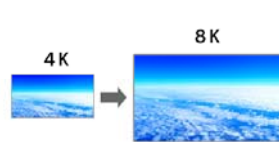
- FPGAメインボードと物理インターフェースのサブボードで構成
- ニーズに合わせてボードの組み合わせにより、様々な映像インターフェースとの接続が可能で、多様な映像処理を実現
- 2015年11月より販売開始



■ 活用事例

- 4K映像から8K映像へのアップコンバート
- 8K映像に文字情報や他の映像を合成

4Kから8Kのアップコンバート



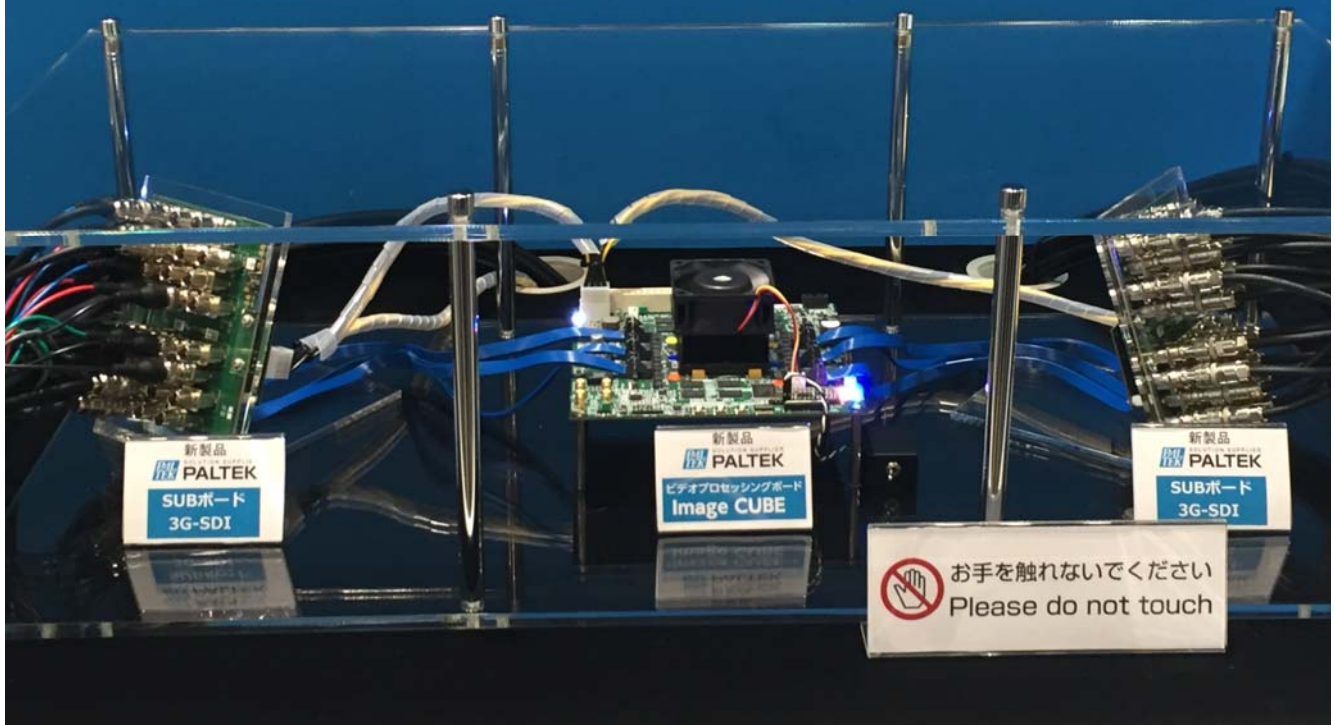
8Kの画像合成



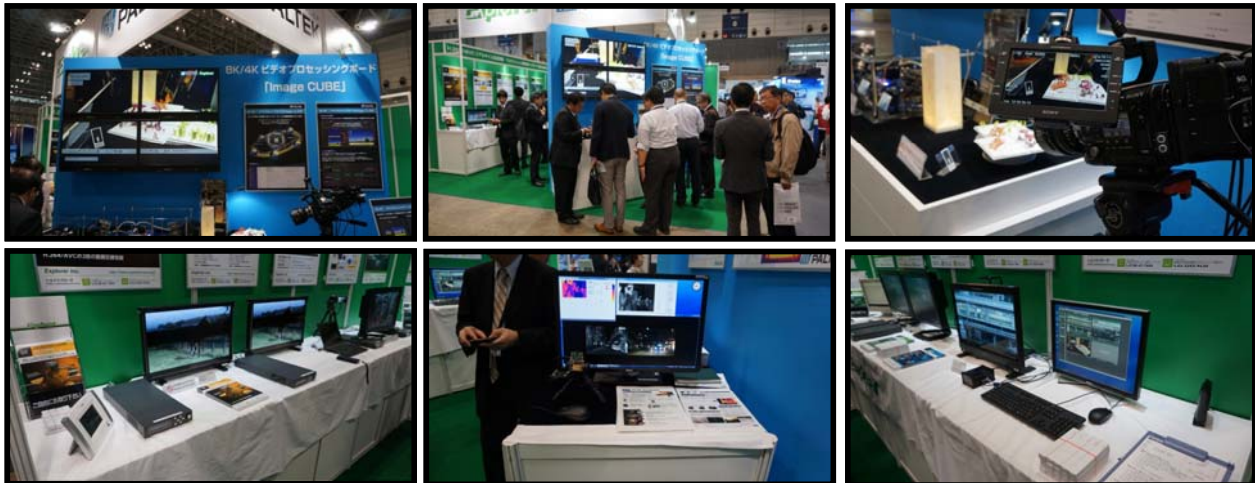
FY2015 Results Reporting

Image CUBE

- 最新のFPGA、ビデオ入カインタフェースICなどを採用
- 評価基板としても活用できるため、半導体事業との相乗効果あり



- 2015年11月18日～20日に、国際放送機器展に出展
- NHKをはじめ、各放送局の方に来場いただき、多くの反響を頂きました
- 主な展示品目
 - 8K/4Kビデオプロセッシングボード「Image CUBE」
 - H.264 IP蓄積伝送装置
 - H.265/HEVC リアルタイム映像伝送装置



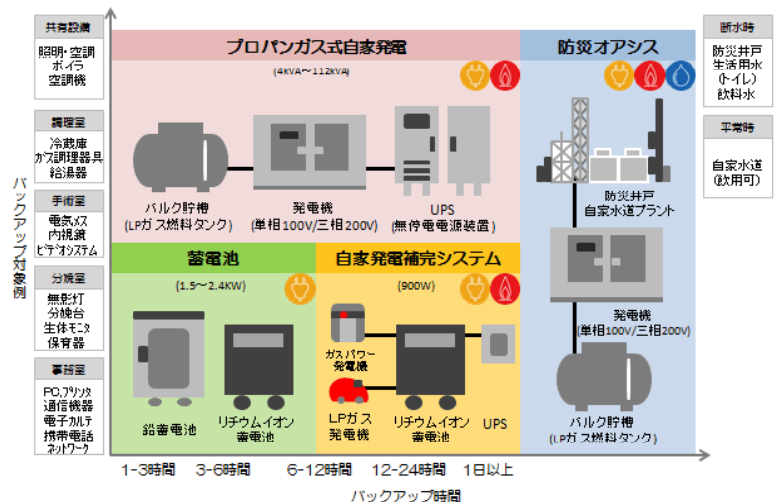
FY2015 Results Reporting

■ 事業の方向性

- スマートエネルギーソリューションの開拓・販売を通じて、エネルギー面からの持続可能な社会構築に貢献する

■ 戦略

- 長時間(72時間以上)提供可能な病院向け停電対策システムの構築および販売
- ニーズに基づいた新製品ソリューションの構築



■ 医療法人仁聖会碧南クリニック 様(愛知県) 【内科・腎内科・人工透析】

- 導入の背景
 - 開業時に設置した非常用発電機は単相・軽油1機のみであり、災害時には透析を継続できる状況にはないため
- 導入の結果
 - プロパンガス式自家発電機(75kVA 三相2台)を導入
 - 透析医療機器だけでなく、井戸ポンプや給水ポンプもバックアップ対象として設計し、透析治療に必要な電気と水の両方を確保可能に



FY2015 Results Reporting



39



© 2016 PALTEK Corporation. All rights reserved.

■ 一般社団法人あきの会 虹の家様(福岡県) 【療養介護事業所】

- 導入の背景
 - 人工呼吸器が必要な患者様の入居対応のため、安全で安心できる環境を構築したい
- 導入の結果
 - 災害に強いLPガス自家発電機と医用UPS(無停電電源装置)の導入
 - 停電時にも人工呼吸器や照明などが3日間72時間使用可能になった



施設外観



LPガス発電機(5kVA)とガスボンベ庫



参 考 資 料

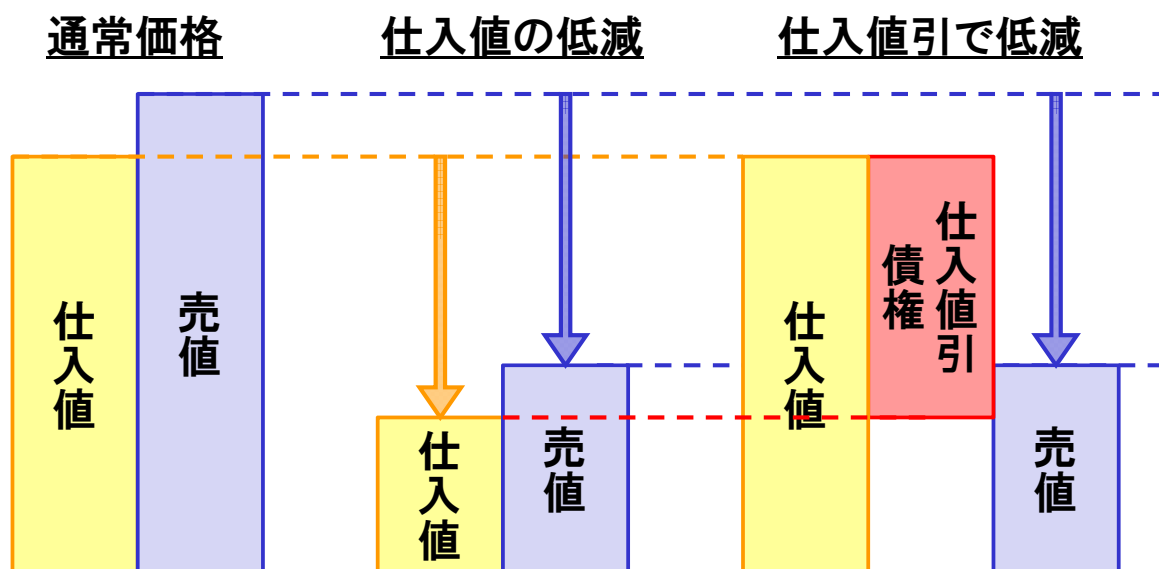


2016年12月期 製品別業績予想

(百万円)	2015年12月期 実績			2016年12月期 業績予想			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
半導体	12,524	14,730	27,255	13,780	14,320	28,100	844	3.1%
FPGA	5,334	8,078	13,412	6,800	6,850	13,650	237	1.8%
特定用途IC	3,217	2,686	5,904	2,950	2,600	5,550	△354	△6.0%
汎用IC	1,850	1,739	3,590	1,780	2,020	3,800	210	5.9%
アナログ	966	1,095	2,061	1,200	1,500	2,700	638	31.0%
メモリ	1,155	1,131	2,286	1,050	1,350	2,400	113	5.0%
デザインサービス	704	650	1,354	700	900	1,600	245	18.1%
その他	79	152	231	120	180	300	68	29.4%
売上高合計	13,308	15,533	28,841	14,600	15,400	30,000	1,158	4.0%
営業利益	747	613	1,361	520	680	1,200	△161	△11.9%

- 仕入値引債権とは
- 仕入値引債権の評価額変動リスク
- 調達在庫のレート変動リスク
- 決済時ドル調達レート変動リスク

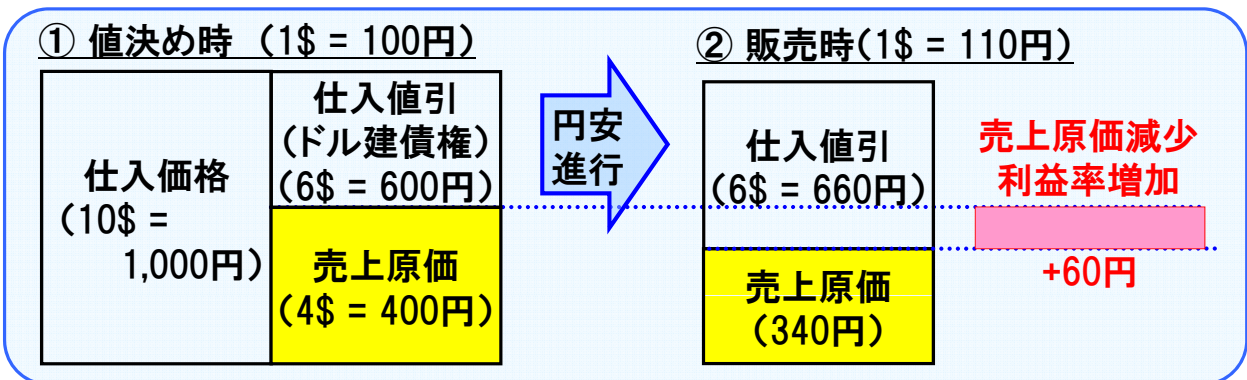
- 量産案件によっては、通常価格よりも低い価格での販売を要請されることがある
- その場合、仕入先との間で仕入価格の低減交渉を行う
- その実現方法には、「仕入値自体の低減」と「仕入値引債権の付与による低減」の2パターンがある



仕入値引債権の評価額変動リスク

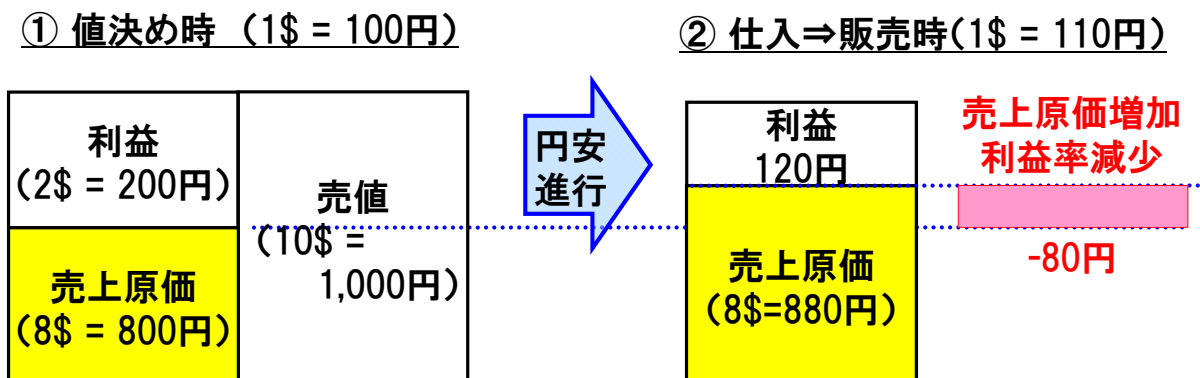
- ① 値決め : 量産案件では、標準仕入価格を下回る特別価格を適用することがある
- ② 販売 : 販売時に仕入値引(ドル建債権)を受け取る。値決め時よりも円安が進行している場合、仕入値引のドル建債権の評価額が増加

売上原価減少 → 利益率増加



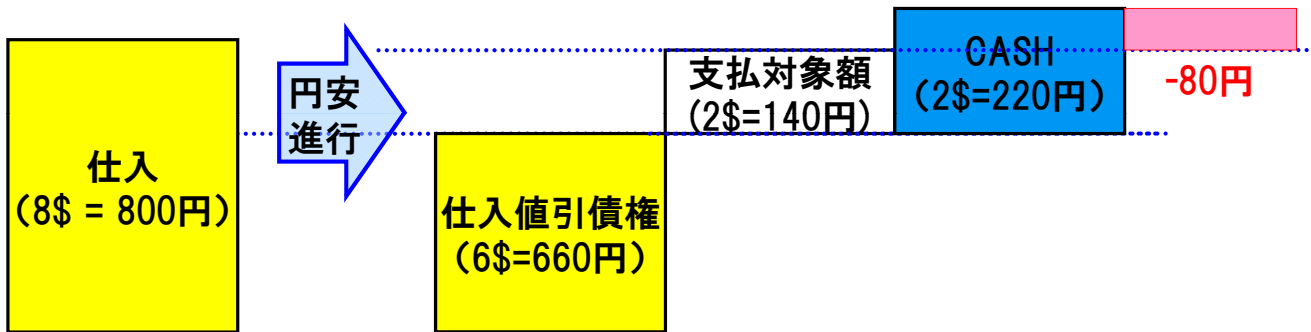
調達在庫のレート変動リスク

売上原価増加 → 利益率減少



① 仕入時 (1\$ = 100円) ② 販売・支払時 (1\$ = 110円)

決済差額



開示区分	内容説明
半導体事業	半導体及び関連製品の販売、技術支援
FPGA	ザイリンクス社のFPGAを中心とするソリューション
特定用途IC	特定用途に特化した半導体を中心とするソリューション (例:通信向け、インタフェース向け、携帯端末向け等)
汎用IC	NXPセミコンダクターズ社、マイクロチップテクノロジー社等の汎用ICを中心とするソリューション
アナログ	リニアテクノロジー社等のアナログ半導体を中心とするソリューション
メモリ	マイクロンテクノロジー社等のメモリを中心とするソリューション
デザインサービス事業	受託開発、ODM/EMS/OEM、自社製品の販売
その他	上記のカテゴリに属さないソリューション

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したもので、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、本資料においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであります。

また、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- ① 国内エレクトロニクス業界の急激な景気変動や需要動向の変化
- ② 仕入先の代理店政策の見直しや再編等により取引関係の継続が困難となった場合
- ③ 不測の事態による当社グループの情報資産が流出した場合
- ④ 為替相場の急激な変動
- ⑤ 新規仕入先商品の立ち上がりの遅れが生じた場合
- ⑥ 顧客の日本国内での製品開発案件が更に海外へシフトし、当社グループの販売活動が及ばない地域へ移管された場合

お問い合わせ先

株式会社PALTEK IR担当 柴崎 由記

〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-3-12 新横浜スクエアビル

TEL :045-477-2016

E-mail :ir@paltek.co.jp